



■環境共生キャンパスの実現

1. 周辺環境への配慮

- ① 烏丸通に面する桜並木は地域の原風景であることから、積極的に保存し、外構計画に取り込んでいく。
- ② サンクンガーデンや外構を最大限緑化し、既存桜並木と東側相国寺の杉林との緑の連携を図る。
- ③ 騒音源となる空調機器など、極力隣地境界から離れた位置に配置し、かつ防音壁の設置などによる対策を行う。

2. 自然エネルギーの利用

- ① 屋上に太陽光発電の設備を設ける。
- ② 屋上を緑化する。
- ③ 雨水を植栽灌水等に利用する。
- ④ サンクンガーデンを活かして、各居室の自然通風確保が確保できるようにする。
- ⑤ 屋上トップライトから光ダクトで、中廊下に昼光を導入する。
- ⑥ 断熱材を効果的に配置、ペアガラスを採用するなど、通常建物に比して20%以上のCO2削減を目標とする。

3. 高効率機器の採用

- ① LED照明など、高効率機器を採用する。
- ② 人感センサー、昼光センサーで照明制御を行う。

4. 長寿命化

- ① 100年建築を目指す。
 - ・ 躯体のコンクリート強度は、 $F_c=30$ [N/mm²] とする。
 - ・ コンクリートの被り厚は、法定+10mm とする。
- ② 下地・仕上材、設備機器やステンレス給水管、配管、及び植栽等、長寿命化を考慮した材料を選定する。
- ③ 維持管理計画
 - ・ 屋上や地下、バルコニー配置の機器等を更新する際のスペース、機器移動ルートを確認する。
 - ・ 予備スペースを設けるなど配管・配線更新を容易に行えるようにする。
- ④ 将来可変対応
 - ・ 将来の間仕切変更などの可変性に備え、耐震壁以外の間仕切壁を乾式壁とする。
 - ・ 6mスパンの半分、3m毎を1単位としたモジュール設計とし、空調機器・照明器具等を割り付ける。

5. エコマテリアルの採用

- ① リサイクル材使用材料を採用する。
- ② その他、エコマーク取得材料など、エコマテリアルを採用する。